



愛知労働局発表
平成30年5月28日(月)

【照会先】
労働基準部安全課
安全課長 桑原 幸弘
主任安全専門官 松田 成正
(電話)052-972-0255

報道関係者 各位

転倒災害防止に向けた取組みを推進します

(キャッチフレーズ「危なさと 向きあおう」)

愛知労働局管内の転倒災害の発生状況を見ると、平成29年は1,524件と全体の約23%を占めており、また増加傾向にあります。

このため、愛知労働局では、全国安全週間(準備期間6月1日~30日、本週間7月1日~7日)において、関係行政機関、労使団体、労働災害防止団体、業界団体、管内主要企業等に働きかけ、独自に作成したステッカーを、県内事業場に広く配布し安全意識の高揚を図るなど転倒災害の防止に取り組めます。

[7月1日~7日(本週間)における活動]

(1) 7月4日(水)

① 愛知産業安全衛生大会(場所:名古屋国際会議場センチュリーホール)

県下の事業場から経営幹部・安全衛生担当者等の出席

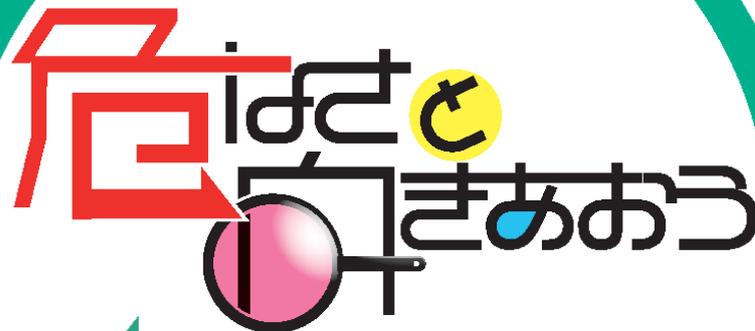
② 安全衛生表彰式

県内の安全衛生管理の優良な事業場及び安全衛生に功績のあった個人を愛知労働局長から表彰(別途広報予定)

(2) 7月5日(木)14:30~16:00

(株)大丸松坂屋百貨店

転倒災害防止対策についての視察



2018 全国安全週間

愛知 Aichi Labour Bureau 労働局

STEP 1 「STOP転倒災害」

- 転倒災害のうち一定のものは、高齢による運動能力低下や作業行動等が原因に関わっています。しかし、作業環境等に原因があるものも多く、雨水や風雪、作業面や通行面の凹凸や傾斜、掃除後の水分、厨房の油分、整理整頓の不行き届き等、挙げれば切りがありません。またそれらの中には、措置を講じてより安全にできる箇所も多くあります。
- 全国安全週間を機会に転倒災害の原因を考え、災害発生を未然に防ぎましょう。その上で、なお向きあわねばならない箇所には、上のステッカーを貼り注意を促しましょう。

STEP 2 「危なさと向きあおう」

- この世の中に「絶対安全」と呼べる状態はあり得ません。「危険」と「安全」の2段階に割り切るのではなく、どのくらいの危なさであるか「度合い」で考えることが必要です。身の回りに危なさがあふれていることを認め、その度合いを把握し、付き合わざるを得ない危なさについては承知して管理下に置くこと、つまり危なさと正しく向きあうことが必要です。
- 全国安全週間を機会に、「安全」についてもう一度考えてみませんか？
詳しくは、下記QRコードから愛知労働局ホームページをご覧ください。



動画「危なさと向きあおう」

約4分の動画で、危なさと向きあうとはどういうことかを、解説しています。

「論理的な安全衛生管理の推進・定着」

愛知労働局が提唱する、論理的な安全衛生管理についてさらに詳しく解説しています。



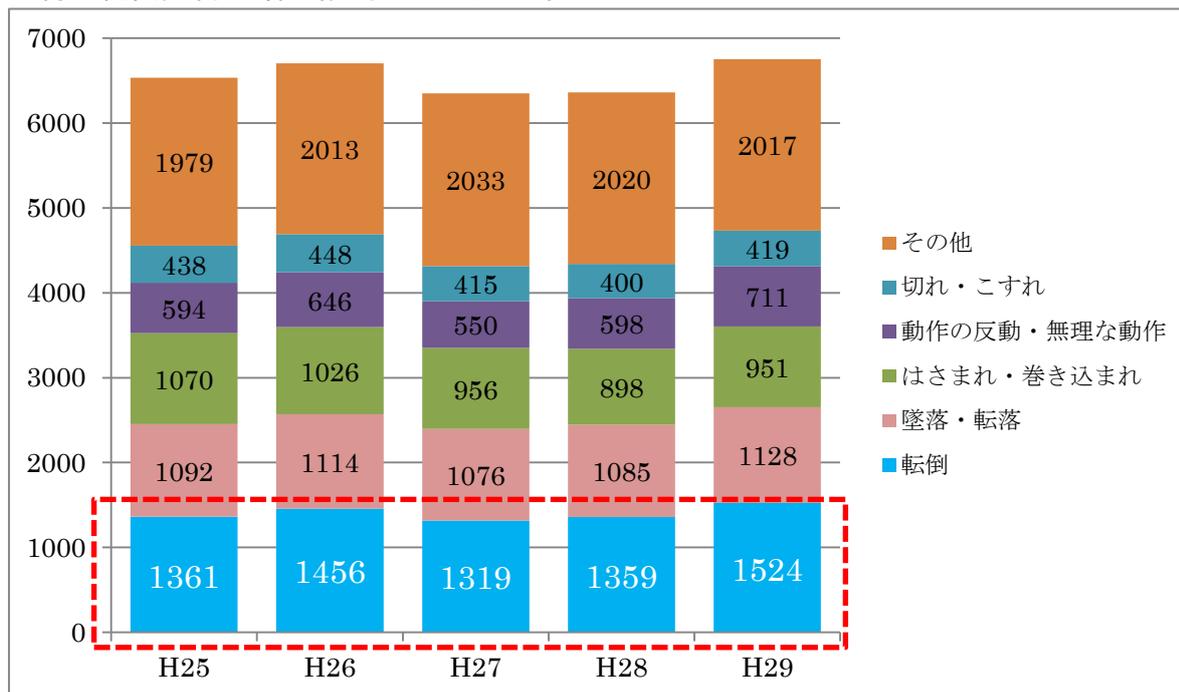
愛知労働局管内の転倒災害の状況

1 愛知局管内の事故型別労働災害発生状況

労働災害は平成 27 年から増加傾向となっている。

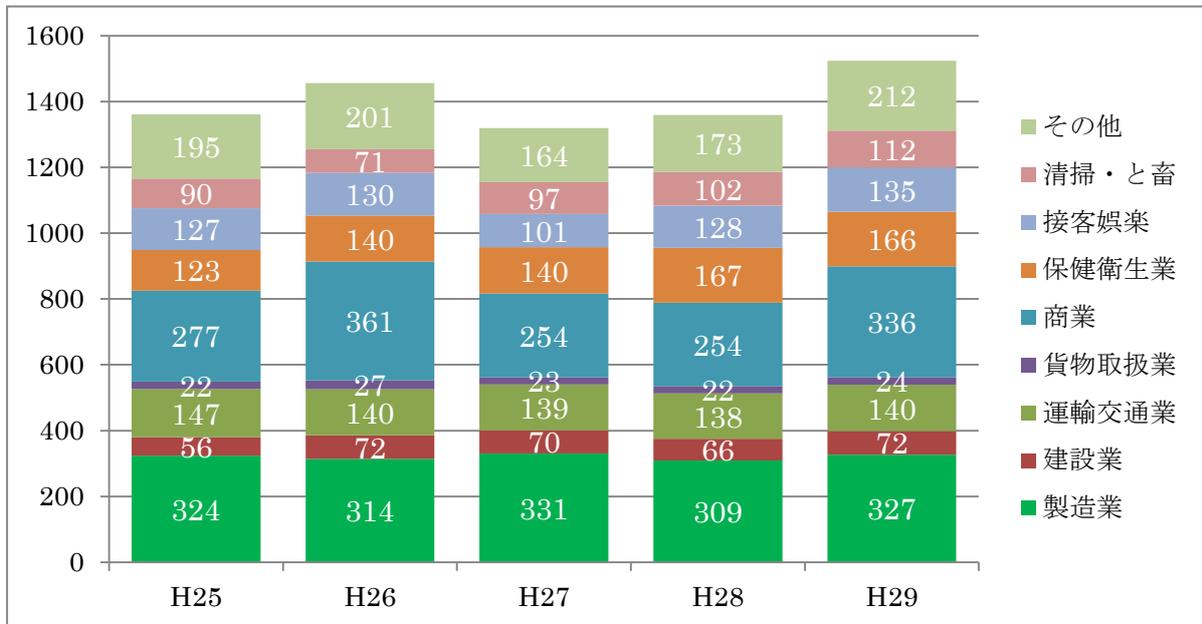
平成 29 年において事故型別では転倒災害が 1,524 件と最も多く全体の 23%を占めている。次いで、墜落・転落が 1,128 件(17%)、はさまれ・巻き込まれが 951 件(14%)の順になっている。

特に転倒災害は増加傾向となっている。



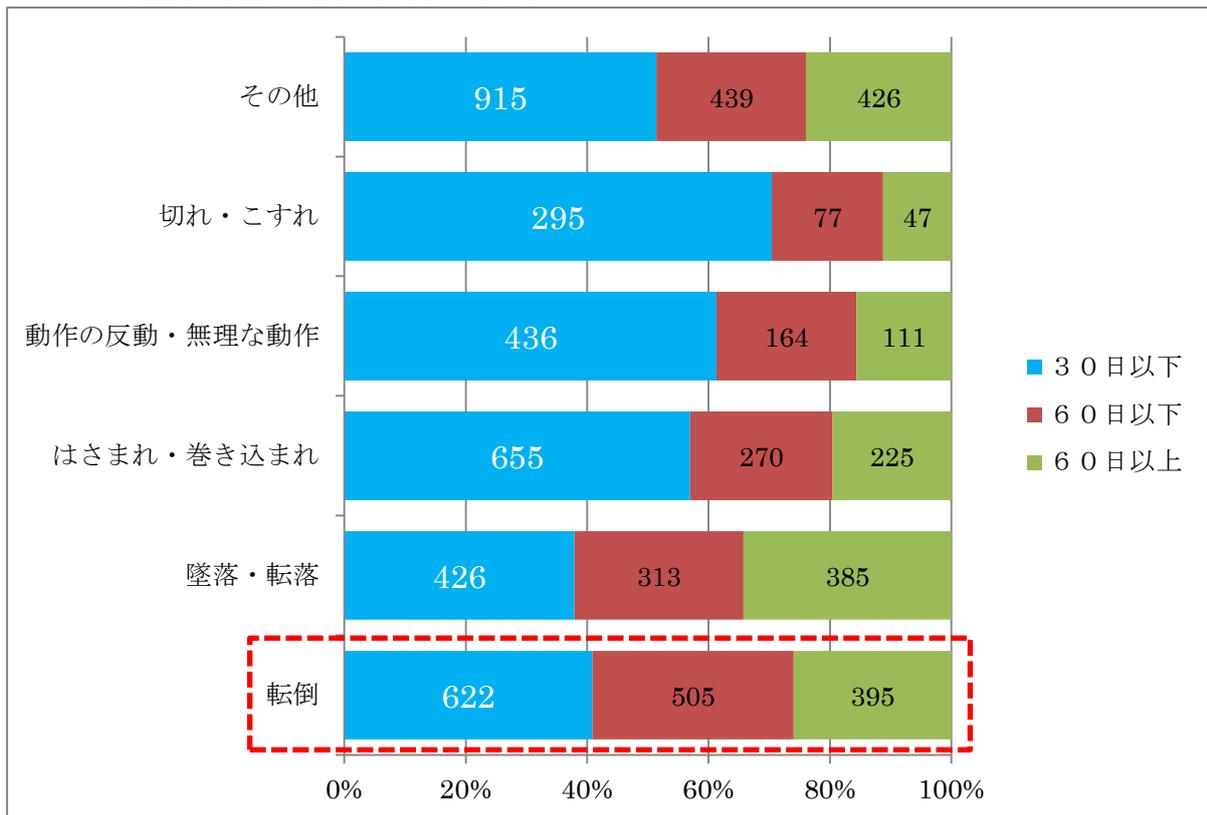
2 転倒災害の業種別災害発生状況

転倒災害は、平成 29 年は商業が 336 件と最も多く全体の 22%を占めている。次いで製造業が 327 件(21%)、保健衛生業が 166 件(11%)の順になっている。



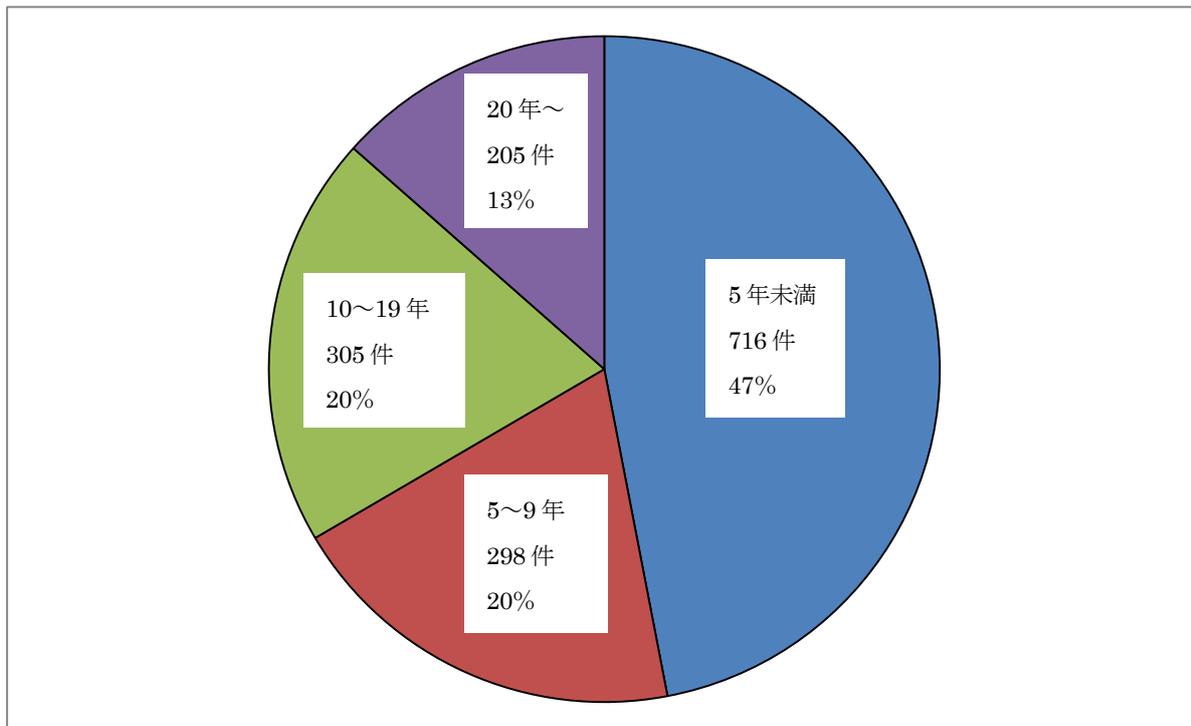
3 平成 29 年の事故の型別・休業日数別の状況

平成 29 年に発生した労働災害を事故の型・休業日数別にみると、転倒災害は墜落・転落に次いで重篤度の割合が高い災害である。



4 転倒災害の平成 29 年の経験年数別の状況

平成 29 年に発生した災害を経験年数別にみると、5 年未満で 716 件で 47%を占めている。



5 転倒災害の平成 29 年の年代別・事故の型の状況

平成 29 年に発生した労働災害を年代別・事故の型別にみると、年齢が高くなるにつれ、転倒災害の割合が顕著に高くなってきている。



6 転倒災害の平成 29 年の男女別の状況

平成 29 年に発生した災害を年代別・男女別にみると、年齢の上昇に伴い構成比率も上昇し、特に 50 歳代以降の女性の比率が著しい。

